

# 彙 報

会 長 小 泉 保

## 昭和 63 年度第 2 回常任委員会

日 時：9 月 4 日（日）午後 2 時～4 時 30 分

場 所：三省堂大阪支社

出席者：小泉 保（会長），笈 壽雄，影山太郎，佐藤昭裕，寺村秀夫，松本克己，藪 司郎（以上，常任委員），近藤達夫（常任委員，事務局長），南 不二男（会計監査委員），西 義郎（第 97 回大会開催校，大会運営委員長），庄垣内正弘（第 97 回大会開催校）。

議事ならびに報告：

- （1） 第 97 回大会について（研究発表者の選定，プログラムの決定等）。
- （2） 日本言語学会設立 50 周年記念事業について。
  1. 記念式典の式次第を検討した。
  2. 『言語研究』別冊記念号の内容及び編集経過について編集委員長下宮忠雄氏（欠席）からの手紙による報告を了承した。また，別冊の内容のうち，学会 50 年史の部分を抜刷りした小冊子を発行し，第 97 回大会会場で出席者に配布することとした。
  3. 記念パーティーの次第等を検討した。
  4. 上記について開催校の意見を聞いた。
- （3） 九学会連合会について。
- （4） その他。

## 昭和 63 年度第 2 回委員会

日 時：10 月 22 日（土）午前 10 時 30 分～12 時

場 所：神戸市外国語大学 大学本部 2 階 教授会室

出席者：小泉 保（会長）、池上二良、井出祥子、井上和子、井上史雄、上野善道、大束百合子、荻野綱男、鏡味明克、笈 壽雄、菊地康人、国広哲弥、近藤達夫、阪倉篤毅、崎山 理、下宮忠雄、庄垣内正弘、杉藤美代子、竹内和夫、田中克彦、土田 滋、角田太作、徳川宗賢、長嶋善郎、仁田義雄、林 栄一、樋口康一、平山輝男、堀井令以知、松本克己、宮岡伯人、村木正武、藪 司郎、吉田和彦（以上 34 名）。

委任状：24 名

オブザーバー：西 義郎（第 97 回大会運営委員長）、伊藤克敏（第 98 回大会開催校、神奈川大学）。

議事ならびに報告：

- （1） 第 2 回常任委員会の報告。
- （2） 科学研究費補助金第一段審査委員候補者選出のための、委員による郵送投票の結果について以下の通り報告があった。
  1. 前回委員会後に、学術会議より上記候補者 2 名の推薦依頼があり、推薦締切までの委員会開催が不可能であったため、委員による郵送投票を行なった。
  2. 開票は、下記の選挙管理委員会で行なわれた。
 

日 時：昭和 63 年 8 月 29 日（月）午後 3 時～4 時 30 分

場 所：三省堂大阪支社

出席者：小泉 保（会長）、影山太郎、近藤達夫、崎山 理、  
佐藤昭裕、庄垣内正弘、徳川宗賢。

オブザーバー：藪 司郎（常任委員）。
  3. 開票の結果は
 

当選：国広哲弥、松本克己。次点：西田龍雄。

であった。
  4. 選挙結果に基づき、学術会議に推薦した。
- （3） 第 97 回大会——日本言語学会設立 50 周年記念大会——について常任委員会案を承認した。
- （4） 『言語研究』別冊について。編集委員長 下宮忠雄氏より編集経過

の報告があった。大会配布用の小冊子を大会に先立ち、委員に配布した。

- (5) 平成1年度春季(第98回)大会は、1989年6月3日(土)、4日(日)の両日、神奈川大学で開催することを決定、伊藤克敏氏を大会運営委員長とすることが報告された。
- (6) 九学会連合会について。9月18日、九学会顧問理事会に出席した小泉保氏(会長)、徳川宗賢氏(九学会連合理事)より、理事会で、九学会のうち、6学会が退会、解散、または解散の方向、3学会のみが継続の意向を表明したことから、九学会連合会は、結局、一年の、解散に必要な手続の期間を置いた上で解散することになったとの報告があり、これを了承した。
- (7) 日本学術会議第十四期東洋学研究連絡委員会委員候補者を以下の通り選出した。  
北村 甫(次点:西田龍雄)。  
任期は昭和63年7月22日~平成3年7月21日。
- (8) その他。
1. 財団法人 津田塾会主催「国際シンポジウム 日本語教育の現代的課題」(11月5日(土)、6日(日)、7日(月)、於津田ホール)に、後援学会となったことが報告された。
  2. 三省堂より言語学会に対し『言語学大辞典』第1巻 世界言語編(上)の寄贈があったが、これの取り扱いについては、特別寄贈図書として、事務局に保存することとした。
  3. 株式会社くろしお出版を賛助会員とすることを承認した。(会則第8条参照。)
  4. 日本音声学会からの会誌交換の申し入れについて審議し、これを受け入れることにした。

第97回大会——日本言語学会設立50周年記念大会——

期 日 昭和63年10月22日(土)・23日(日)

会 場 神戸市外国語大学

第 1 日 (10月22日)

開会の辞 午後1時より

日本言語学会設立50周年記念式典

会長挨拶

歴代委員長・会長祝辞(メッセージ)

国内他学会からの祝辞(メッセージ)

日本音声学会会長 平 山 輝 男

国語学会代表理事 築 島 裕

日本英語学会会長 長谷川 欣 佑

外国の言語学者からのメッセージ

記念講演

言語の構造と体系

服 部 四 郎

リレー講演

《中央アジアの文献言語と言語接触》

中央アジアの国際共通語としてのチベット語

武 内 紹 人

ゾグド語の消滅——中央アジアのチュルク語化の一例——

吉 田 豊

(古)ウイグル語と漢語との接触——ウイグル語における

漢文訓読の可能性——

庄垣内 正 弘

蒙古仏典に見られる借用語を通して観察可能な言語接触の様態

樋 口 康 一

司 会 西 義 郎

会員懇親会——日本言語学会設立50周年記念パーティー—— 午後5時30分～7時30分

第 2 日 (10 月 23 日)

研究発表 午前 10 時～12 時 20 分

○ A 会場

(A 1) 幼児と脳梁損傷者にみられるリズムの左右非対称性

河 野 守 夫

柏 木 あさ子

柏 木 敏 宏

(A 2) 促音における舌と口蓋の接触パターン

吉 岡 博 英

(A 3) Aquisition of Timing Control in English by  
Japanese Learners: Experiments on  
Production and Perception

須 藤 路 子

桐 谷 滋

(A 4) 日本語における数表示の特徴とその普遍性

安 武 知 子

○ B 会場

(B 1) 日本語難易文の複次元 paradigm 的分析

田 原 薫

(B 2) Relevance 理論における「疑似条件文」と  
「暗黙の前提」

山 崎 英 一

(B 3) 語用論から見た英語の従属接続詞について

川 瀬 尚 樹

(B 4) 英語能動受動文に現れる動詞について

吉 村 公 宏

○ C 会場

(C 1) Rather と否定

福 安 勝 則

(C 2) 英語の主語節の外置と目的節の外置について

川 島 祝

(C 3) WH-IN-SITU: Moved or Unmoved?

岸 本 秀 樹

(C 4) Pure Superiority 再考

藤 田 耕 司

研究発表 午後 1 時 30 分～3 時 50 分

○ A 会場

(A 5) 『大清太宗文皇帝実録』の満洲語音訳漢字から  
見た漢語の牙音・喉音の舌面音化について

山 崎 雅 人

(A 6) トンガ語の動詞アクセントについて

湯 川 恭 敏

(A 7) アイヌ語の人称接語の不定人称形と一人称複数形

切 替 英 雄

- (A 8) アイヌ語の受動文の「主語」に関する一考察 佐藤 知己
- B会場
- (B 5) 小笠原諸島における呼称の使用 関 口 やよい
- (B 6) Intra- and Inter-Speaker Language Variation 日比谷 潤 子
- (B 7) 日本語と韓国語の第三者に対する敬語用法の比較  
対照 荻 野 綱 男  
金 東 俊  
梅 田 博 之  
羅 聖 淑  
盧 顕 松  
福 田 麻 子
- (B 8) 「わきまえ方式」による敬語行動の国際比較  
——日本, 韓国, タイ, 中国, アメリカ,  
スウェーデンの場合—— 井 出 祥 子  
申 恵 璟  
川 崎 晶 子  
荻 野 綱 男  
Åke Daun  
Beverly Hill
- C会場
- (C 5) 疑問文の挿入節について 柏 木 吉 章
- (C 6) 極性一致の付加疑問文 稲 木 昭 子
- (C 7) Avoid Empties and Syllabification 高 橋 直 彦
- (C 8) 素性を導入した範疇文法について 風 斗 博 之
- 閉会の辞

◇ 『言語研究』 寄贈先追加 (彙報 299 頁参照)

日本音声学會 ★151 渋谷区代々木 2-11-5

アクティブ新宿 601 号

◇ 受贈図書リスト (昭和 63 年 8 月 1 日～11 月 30 日)

- 音声学會會報 第 187 号, 188 号 (日本音声学會 1988)
- 外国語・外国文学研究 11 (大阪外国語大学大学院修士會 1987)
- 外国文学研究 81 (立命館大学外国語科 連絡協議會 1988)
- 計量国語学 16 卷 6 号 (計量国語学会 1988)
- 研究報告集 9 (国立国語研究所 1988)
- 言語学大辞典 第 1 卷 世界言語編 (上) (三省堂 1988)
- (彙報 299 頁参照)
- 言語の世界 Vol. 5 No. 1 (言語研究学会 1987)
- 言語文化研究 第 5 号-1987, 第 6 号-1988  
(東京外国語大学大学院外国語学研究所 言語・文化研究会 1987～1988)
- 国語学 153, 154 (国語学会 1988)
- 国立国語研究所年報 昭和 61 年度 38 (国立国語研究所 1987)
- 財団法人新村出記念財団報 2 (財団法人新村出記念財団 1988)
- 史苑 第 48 卷 第 2 号 (立教大学史学会 1988)
- 西洋古典学文献目録 (水戸博之編) (水戸博之 1988)
- 朝鮮学報 第百二十八輯 (朝鮮学会 1988)
- 通信 第 62, 63 号 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1988)
- 東海大学紀要: 留学生教育センター 第 8 号 (東海大学 1988)
- 東京外国語大学論集 第 38 号 (東京外国語大学 1988)
- 独協大学 外国語教育研究 第 7 号 (独協大学外国語教育研究所 1988)

- 東方学 第七十六輯 (東方学会 1988)
- 東方学会報 No. 54 (東方学会 1988)
- 東洋音楽学会第 39 回大会 (東洋音楽学会 1988)
- 日本音声学会全国大会 研究発表論集 昭和 63 年度 (日本音声学会 1988)
- 日本学術会議月報 第 29 卷 8 月～11 月号  
(日本学術会議広報委員会 1988)
- 日本全国書誌 No. 1670 (国立国会図書館 1988)
- みんぱく 8 月～11 月号 (国立民族学博物館 1988)
- モイラ言語 (井上忠著) (東京大学出版会 1988)
- 山口女子大学研究報告 自然科学 第 2 部 第 13 号 (山口女子大学 1987)
- 山口女子大学研究報告 人文・社会科学 第 1 部 第 13 号  
(山口女子大学 1987)
- 論集 42 (神戸大学教養部 1988)
- 論集 ことば (『論集ことば』刊行会 1988)
- 若者の敬語に対する意見 アンケート (永田高志著) (永田高志 1988)
- Acta Asiatica 55 (東方学会 1988)
- American Translators Association Series Vol. II  
(State University of New York at Binghamton <SUNY> 1988)
- ArOr Vol. 56 1～3 (Academia Praha 1988)
- Austronesian Root Theory (Robert A. Blust)  
(John Benjamins Pub. Co. 1988)
- Вестник Ленинградского Университета 3 (Ленинград 1988)
- Bulletin 1988 Annual Meeting No. 120  
(The Linguistic Society of America 1988)
- Contrastive Studies in Hungarian-Japanese (Judit Hidasi)  
(Akadémiai Kiadó Budapest 1988)
- Language Vol. 64 No. 2, 3  
(The Linguistic Society of America 1988)
- Litteratura 9 (名古屋工業大学外国語教室 1988)



- Max Niemeyer Verlag II (Max Niemeyer Verlag 1988)  
 The MIT Press (The MIT Press 1988)  
 Naše Řeč 3  
 (Academia nakladatelství Československé akademie věd 1988)  
 Philologia 20 (三重大学英語研究会 1988)  
 Русская Литература 2 (Академия Наук СССР 1988)  
 Русский Фольклор XXIV (АН СССР Наука Ленинград 1987)  
 Русский Язык в Школе 3~5 (Просвещение 1988)  
 Slovo a Slovesnost XLIX 3  
 (Československá Akademie Oriental Institute Čsav 1988)  
 Vocal Physiology : Voice Production, Mechanisms and  
 Functions (Osamu Fujimura) (Raven Press 1988)

◇ 本誌は、文部省昭和 63 年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を得て刊行されたものである。